

# ASBJ Newsletter



## 目次

1. 企業会計基準等の開発（2009年8月8日～2009年9月30日）
2. 企業会計基準委員会の概要（第182回～第185回）
3. IASB及びFASFに対するASBJのコメント（2009年8月1日～2009年9月30日）
4. ASBJのプロジェクト計画表を更新
5. IASBとの第10回共同会議を開催
6. 各国会計基準設定主体会議（NSS会議）に加藤常勤委員他が参加
7. 世界基準設定主体会議（WSS会議）に西川委員長他が参加
8. IASB/FASF「金融商品：分類及び測定」に関する円卓会議を東京で開催
9. FASFとの意見交換会を開催
10. 日本証券アナリスト協会企業会計研究会ユーザーグループとの会議を設置
11. 第7回基準諮問会議を開催
12. FASFセミナー「四半期報告書の作成要領（平成21年9月第2四半期提出用）」を開催
13. 遠藤FASF常務理事が欧州の会計基準関係者を訪問
14. IFRSに関するオーストラリア調査団に丸山専門研究員が参加
15. プロジェクト進捗（コンバージェンス関連項目） 2009年10月7日現在
16. お知らせ

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

## 1. 企業会計基準等の開発（2009年8月8日～2009年9月30日）

### 1) 【DP】「引当金に関する論点整理」の公表（2009年9月8日）

（コメント受付は11月9日までとなります。）

### 2) 【DP】「収益認識に関する論点整理」の公表（2009年9月8日）

（コメント受付は11月9日までとなります。）

#### 【凡例】

DP：論点整理・検討状況の整理

ED：公開草案

Final：会計基準/適用指針等（最終）

## 2. 企業会計基準委員会の概要（第182回～第185回）

### 1) 第182回（2009年8月4日開催）

- a. 「公正価値測定及びその開示に関する論点の整理（案）」【公表議決】
- b. 金融商品専門委員会における検討状況
- c. 引当金専門委員会における検討状況
- d. 収益認識専門委員会における検討状況
- e. 過年度遡及修正専門委員会における検討状況
- f. 退職給付専門委員会における検討状況

- a. 論点整理の公表議決が行われました。  
論点整理は、公正価値の概念、測定方法および開示の論点からなっています。

公正価値の測定方法について、国際的な会計基準では、測定するにあたって用いられるインプットを3つのレベルに分類、優先順位付けしており、原則として、観察可能なインプットを最大限利用し、観察不能なインプットの利用は最小限にしなければならぬとされています。また、開示についてもヒエラルキー別の開示が求められていますが、論点整理では、我が国において

もこれらを導入する検討が行われています。

b. IASB 公開草案「金融商品：分類及び測定」の概要についての説明が行われ、それに対するコメントの検討が行われました。

c. IFRS による修繕引当金の取扱いと我が国の現行基準の取扱いの相違点についての説明が行われました。

IFRS では現行の修繕引当金の引当計上認められず、同様の効果を得るためには、実務を大きく変える可能性があります。

d. 論点整理の文案検討が行われました。

各論に係る項目では、工事進行基準の取扱い、従来の製品保証引当金などの複数要素契約の取扱い、出荷基準や割賦販売での回収基準・回収期限到来基準の選択の取扱い等が取り上げられています。

e. コメントを受けての文案検討が行われました。

連結・個別財務諸表両方を開示している場合に個別財務諸表での注記を一部省略できる取扱いが追加されました。

f. 退職給付に関する論点のうち、給付見込額の期間帰属方法について、給付算定式に従う方法のみとするか、期間定額基準との選択適用とするかについての検討が行われました。

### 2) 第183回（2009年8月20日開催）

- a. 引当金専門委員会における検討状況
- b. 収益認識専門委員会における検討状況
- c. 無形資産専門委員会における検討状況
- d. 金融商品専門委員会における検討状況

- a. 次回委員会での議決を前に、論点整理の最終文案の検討が行われました。

- b. 次回委員会での議決を前に、論点整理の最終文案の検討が行われました。

- c. 「定義」、「認識の要件」を中心に論点の検討が行われましたが、両者の関連性がありまいとの指摘を受け、継続して検討することとされました。

- d. 論点整理「金融商品会計の見直しに関する論点の整理」に対するコメントの紹介が行われました。

測定区分の見直しの「売却可能金融資産（その他有価証券）の分類を縮小又は削除する可能性」については、現行の考え方を維持すべきというコメントが多く寄せられています。

### 3) 第 184 回（2009 年 9 月 1 日開催）

- |                             |
|-----------------------------|
| a. 「引当金に関する論点の整理（案）」【公表議決】  |
| b. 「収益認識に関する論点の整理（案）」【公表議決】 |
| c. プロジェクト計画表の更新             |
| d. 金融商品専門委員会における検討状況        |
| e. 過年度遡及修正専門委員会における検討状況     |

- a. 論点整理の公表の議決が行われました。  
コメントは、平成 21 年 11 月 9 日まで募集しています。

- b. 論点整理の公表の議決が行われました。  
収益認識に関する会計基準については、現在、IASB と FASB で検討が行われており、今後の方向性は不明ですが、収益認識基準の我が国の実務に与える影響が大きいと考えられることから、広く一般に知らしめるべく、この時点で論点整理として取り上げ、公表することとされました。

論点整理は、大きく、①IASB/FASB のディスカッション・ペーパーの概要、②我が国にディスカッション・ペーパーの考え方を導入した場合の論点、からなっています。

コメントは、平成 21 年 11 月 9 日まで募集しています。

- c. 2011 年までの委員会での会計基準等の開発スケジュールを示すプロジェクト計画表の更新についての検討が行われました。

プロジェクト計画表は、新たに項目を①既存の差異に関する項目、②IASB/FASB の

MoU 項目に関連する項目及び③IASB/FASB の MoU 項目以外の IASB での検討に関連する項目の 3 つに分類、整理しています。新しいプロジェクト計画表は、9 月 2 日に公表されています。

- d. IASB の公開草案に対するコメントの検討が行われました。

「分類及び測定」の公開草案は、金融商品に係る現在の 4 つの分類を公正価値評価と償却原価評価の 2 分類に縮小することや、その他包括利益のリサイクリングを認めないこと等を内容としています。検討は、その他包括利益に計上した損益とリサイクリングの関係の重要性、受取配当等の純利益での認識等を中心に行われました。

- e. 公開草案に対するコメントを受け、金額的重要性及び質的重要性に関する検討が行われました。

### 4) 第 185 回（2009 年 9 月 17 日開催）

- |                        |
|------------------------|
| a. 無形資産専門委員会における検討状況   |
| b. 特別目的会社専門委員会における検討状況 |
| c. 退職給付専門委員会における検討状況   |

- a. 論点整理文案の検討が行われました。  
前回の委員会での審議を受け、「定義」及び「認識の要件」についての検討が行われました。
- b. 論点整理に寄せられたコメントを踏まえ、連結の範囲についての今後の検討の方向性に係る審議が行われました。
- c. IASB の公開草案「従業員給付の割引率」に対するコメント案の検討が行われました。  
我が国では、退職給付債務を算定する際の割引率について、同公開草案で対応が図られている問題は生じておらず、また、今後、IASB で割引率の包括的見直しが予定されていることから、コメントを行わない方向で意見調整が行われました。

### 3. IASB 及び FASB に対する ASBJ のコメント (2009 年 8 月 1 日～2009 年 9 月 30 日)

1) [ディスカッション・ペーパー「負債の測定における信用リスク」に対するコメント](#)を提出 (2009 年 9 月 1 日)  
(ディスカッション・ペーパーの原文は[こちら](#))

2) [公開草案「株主割当て発行された新株予約権の分類」に対するコメント](#)を提出 (2009 年 9 月 7 日)  
(公開草案の原文は[こちら](#))

3) [公開草案「金融商品：分類及び測定」に対するコメント](#)を提出 (2009 年 9 月 14 日)  
(公開草案の本文は[こちら](#)、関連基準の修正は[こちら](#)、結論の根拠は[こちら](#))

4) [公開草案「公正価値測定」に対するコメント](#)を提出 (2009 年 9 月 25 日)  
(公開草案の本文は[こちら](#)、結論の根拠は[こちら](#)、設例は[こちら](#))

### 4. ASBJ のプロジェクト計画表を更新

企業会計基準委員会 (ASBJ) は、2009 年 9 月 2 日、2011 年までの ASBJ の各プロジェクトのスケジュールを更新したプロジェクト計画表を公表しました。

今回の更新は、本年 6 月に企業会計審議会が公表した「[我が国における国際会計基準の取扱いについて \(中間報告\)](#)」の中で我が国における国際財務報告基準 (IFRS) のアドプションの方向性やコンバージェンスの継続・加速化が提言されていること、IASB が 8 月に公表した 2011 年までの[作業計画](#)を踏まえて行われています。

### 5. IASB との第 10 回共同会議を開催

ASBJ と IASB は、9 月 7 日 (月)、8 日 (火) の 2 日間にわたり、ロンドンにて第 10 回の共同会議を開催しました。ASBJ からは西川委員長をはじめとする委員 3 名及びスタッフ、IASB からは David Tweedie 議長をはじめとする理事 3 名及びスタッフが参加しています。当日の会議のスケジュール及び議題は以下の通りです。

日時	議題
9/7 午前 (公開)	負債の測定、金融商品 (分類及び測定)、その他の包括利益とリサイクリングの有無
9/7 午後 (公開)	その他の包括利益とリサイクリングの有無 (続き)
午後	日本における IFRS の導入
9/8 午前	IASB の活動のアップデート、ASBJ の活動のアップデート

負債の測定に関しては、負債の測定の横断的な論点に関する意見交換を行いました。金融商品に関しては、7 月に IASB から公表された公開草案「金融商品：分類及び測定」に対する ASBJ コメント案に基づき、提案されている分類モデルの考え方、分類の振替、非上場株式の公正価値測定等について意見交換を行いました。その他の包括利益とリサイクリングの有無に関しては、利益の概念、財務報告における利益の表示について意見交換を行った他、包括利益計算書の改訂について具体的な表示のアイデアが一部の IASB 理事から提供され、それに基づいて意見交換が行われました。

日本における IFRS の導入のセッションでは、企業会計審議会から「我が国における国際会計基準の取扱いに関する意見書」が本年 6 月に公表されたことを受けて、今後の IFRS 導入に係る問題への対応と IASB と

のコミュニケーションについて取り上げられました。この中で、IASBから日本の市場関係者及びASBJを支援する意向が示されました。



IASBの活動のアップデートでは、IASBが8月に公表した作業計画に基づき、直近の活動状況や主要プロジェクトを中心に説明がなされ、連結、財務諸表の表示、リースを中心に意見交換が行われました。ASBJのアップデートでは、ASBJが9月初めに公表した新しいプロジェクト計画表の内容、IFRS導入に向けたASBJの対応について説明を行うとともに、IFRSの適用とコンバージェンスの関係、中小企業向けIFRSについて議論が行われました。

次回の共同会議は、2010年4月に東京で開催される予定です。

## 6. 各国会計基準設定主体会議（NSS会議）に加藤常勤委員他が参加

第8回各国会計基準設定主体会議（NSS会議）が、2009年9月8日、9日に、ドイツのフランクフルトにて開催されました。会議には、主催国ドイツをはじめ、22カ国の会計基準設定主体及び、欧州財務報告諮問機関（EFRAG）、IASB等関係機関から約50名が参加しました。ASBJからは、加藤常勤委員と豊田主任研究員が出席しています。

国際的な会計基準の収斂化が進展する中で、各国の会計基準設定主体が直面する問題や、取り組んでいる研究プロジェクトを取り上げて議論し、IASBのプロジェクトや作業計画に対するインプットやサポートを行うことが会議の目的となっています。今回は、次のテーマが議論されました。

議 題	担 当
9月8日（火）	
1. 世界的な経済危機への対応	英国
2. IASBの作業計画	英国
3. 概念フレームワーク（測定）	IASBと米国
4. IFRSの解釈問題への対応	IASBとドイツ
9月9日（水）	
5. 無形資産	オーストラリア・日本
6. 会計基準の影響の分析	英国
7. 年金会計	英国
8. IAS26号の廃止	ニュージーランド
9. 外貨換算取引会計	韓国
10. IFRS2号の見直し	フランス
11. 開示のフレームワーク	EFRAG・カナダ
12. NSS会議の運営及び手続	英国

ASBJは「無形資産」に関してプレゼンテーションを行いました。国内の基準開発で直面している開発費資産計上問題について、無形資産専門委員会が実施した、開発費の資産計上を求めるIAS38号の規定の運用実態の調査を示しつつ、基準の意図どおりに有用な情報提供ができてきているのかを参加メンバーに問いかけ、基準運用レベルを国際的に引き上げていくこともこの会議の重要な課題ではないかと訴えました。

次回は、2010年の4月に韓国のソウルで開催される予定です。

## 7. 世界基準設定主体会議(WSS 会議) に西川委員長他が参加

2009年9月10日(木)と11日(金)、英国ロンドンで世界基準設定主体会議(WSS 会議)が開催されました。WSS 会議は、IASB が世界各国の会計基準設定主体との意見交換のため毎年秋に開催しています。

今回の WSS 会議は、山田辰己 IASB 理事が議事進行を務め、約 50 カ国から 100 名近くが参加しています。日本からは ASBJ の西川委員長、加藤常勤委員、豊田主任研究員、板橋専門研究員が出席しました。

金融危機への IASB の対応を中心としたプログラム構成で、IASB のプロジェクト計画や最近の問題意識に関する説明、プロジェクトのアップデート、小グループに分かれてのディスカッションが行われました。議題は以下のとおりです。

### 【9月10日】

- David Tweedie IASB 議長のスピーチ
- IASB の今後の計画と優先事項
- 金融危機対応：連結及び認識の中止
  - ◇ プロジェクトアップデート：連結
  - ◇ プロジェクトアップデート：認識の中止
  - ◇ 小グループに分かれての議論
  - ◇ 小グループからのフィードバック
- プロジェクトアップデート：収益認識
- 小グループに分かれての議論
  - ◇ 中小企業向け IFRS
  - ◇ その他のプロジェクト（負債と資本の区分、リース、測定）

### 【9月11日】

- 金融危機対応：金融商品（認識及び測定）
  - ◇ プロジェクトアップデート（IASB）
  - ◇ プロジェクトアップデート

(FASB)

- ◇ 小グループに分かれての議論
- ◇ 小グループからのフィードバック
- 小グループに分かれての議論
  - ◇ テクニカルアップデート
  - ◇ その他のプロジェクト（負債と資本の区分、リース、法人所得税、測定）
- IFRS の適用

2日目(11日)の金融危機対応：金融商品(認識及び測定)では、小グループの1つの議長を加藤委員が務めました。そこでは、今年7月に公表されたIASB 公開草案「金融商品：分類及び測定」について、活発な議論が行われ、その結果をまとめた有益なフィードバックが、議長を務めた加藤委員から全体会議においてIASB に提供されました。

## 8. IASB/FASB「金融商品：分類及び測定」に関する円卓会議を東京で開催

IASB 及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、「金融商品：分類及び測定」に関する円卓会議を2009年9月3日に東京で開催しました。この円卓会議には、ASBJ も共同コーディネーターとして参画しています。今回の円卓会議は、アジア地域の意見を収集するために行われたものであり、その後、ロンドン(9月10日)、ノーウオーク(9月14日)で同様の円卓会議が行われています。

東京での円卓会議は、同一のテーマで2回のセッションが行われ、IASB からは Patrick Finnegan 理事、John Smith 理事、山田辰己理事とスタッフ、FASB からは Marc A. Siegel 委員とスタッフ、ASBJ からは西川委員長をはじめとする複数の委員が出席し、その他、アジア・オセアニア地域

の市場関係者(会計基準設定主体、監査人、金融機関、財務諸表利用者)や金融庁など、合計43名が議論に参加しました。

IASBからは7月14日に公開草案「金融商品:分類及び測定」が公表されています。また、FASBは7月15日の理事会で金融商品の分類及び測定の見直しに関して暫定決定をしています。円卓会議は、IASBの公開草案とFASBの暫定決定の内容について、あらかじめ参加者に送付された議題要旨を基に進行され、参加者からは2回のセッションを通じて多くの意見が寄せられました。主なテーマは以下のとおりです。

①提案された分類アプローチ

(ア)金融商品を2つに分類する提案は適切か

(イ)2つの分類を線引きする要件は適切か

②持分金融商品の例外処理

(ア)持合株式等の持分金融商品に例外処理を認めるべきか

(イ)例外処理とリサイクリングの関係

③非上場株式の公正価値測定

(ア)原価処理を容認する現行の免除規定の削除

(イ)測定された公正価値の信頼性

④その他

(ア)純損益を通じて公正価値で測定される金融商品以外の分類測定

(イ)証券化商品の取扱い

IASB及びFASBは、円卓会議で寄せられた意見も踏まえ、今後の対応について検討を進めることとしています。

最後に、IASBのJohn Smith理事から円卓会議の参加者に対する謝辞が述べられ、会議は終了しました。

## 9. FASB との意見交換会を開催

ASBJとFASBは2009年9月3日、非公式な意見交換会を開催しました。これは、同日に東京にて実施された金融商品会計に関する国際会計基準審議会(IASB)のラウンドテーブルに参加するため、FASBのMarc A. Siegel委員が来日したことを受け、急遽行われたものです。ASBJからは西川委員長をはじめとする委員とスタッフ等が参加しました。

意見交換会では冒頭、Siegel委員から金融商品に関するIASBとの共同プロジェクトの最新の動向についてプレゼンテーションが行われました。その中で、金融商品の分類及び測定、金融資産の減損、ヘッジ活動等についてのFASBにおけるこれまでの議論を整理しつつ、その背景にある考え方が説明されました。引き続き行われた質疑応答では、いわゆる戦略的投資の扱い等も含め、活発な議論が行われました。

## 10. 日本証券アナリスト協会企業会計研究会ユーザーグループとの会議を設置

ASBJでは、財務諸表利用者とのコミュニケーションを促進する観点から、日本証券アナリスト協会の中に設けられている企業会計研究会の財務諸表利用者グループとの会議の場を設けました。

従前、会計基準開発に関わる財務諸表利用者の意見は、企業会計基準委員会や専門委員会の中で財務諸表利用者を代表される方々から個別に意見を頂いていました。しかし、IASBとFASBのMoU項目に対して適切に対応し、会計基準のコンバージェンスを図っていくためには、財務諸表利用者とのコミュニケーションをより一層深めることが重要であると認識されてきました。そこで、日本証券アナリスト協会の協力を

得て、本会議を発足させるに至りました。

本会議では、基本的には私ども ASBJ から開発中の会計基準の検討状況について説明し、意見交換を行うことを主目的としており、ASBJ における開発基準の検討の進展に合わせて適宜、開催することとしています。

第 1 回目は 8 月 3 日に開催され、ASBJ が今年 7 月に公表した財務諸表表示と企業結合の論点整理の内容や、金融商品会計の国際的な動向等について意見交換を行いました。続いて、8 月 28 日には、第 2 回目が開催され、ASBJ の今後の会計基準開発の進め方、当期純利益の概念整理を踏まえたその他の包括利益とリサイクリングの関係などについて意見交換を行っています。

なお、産業界とは、日本経済団体連合会の企業会計部会の関係者と、同様の趣旨の会議を以前から開催しています。

## 11. [第 7 回基準諮問会議](#)を開催

FASF では、2009 年 8 月 4 日、第 7 回基準諮問会議を開催しました。会議では、まず ASBJ の最近の活動状況について報告が行われました。その後、退職給付会計及び金融商品の保有目的区分に関する西川委員長名による IASB 議長宛てのレターの件や、コンバージェンス達成の時期、及び引当金の会計処理の見直しについて意見交換が行われました。

続いて、IASB から公表された公開草案「金融商品:分類及び測定」について説明が行われ、IASB の提案と FASB の暫定合意及び ASBJ の対応について意見交換が行われました。

また、昨年 8 月に実施した ASBJ の活動状況等に関するアンケート調査とそれに対する主な取り組み状況についての報告、IFRS 導入のロードマップに対応した民間

レベルでの推進機関として [IFRS 対応会議](#) が発足したことについての説明が行われました。

## 12. FASF セミナー「四半期報告書の作成要領（平成 21 年 9 月第 2 四半期提出用）」を開催

FASF では、2009 年 9 月 7 日より、東京（3 回）、名古屋、大阪、札幌、金沢、広島、福岡、高松、仙台の全国 9 か所延べ 11 回に亘って、「四半期報告書の作成要領（平成 21 年 9 月第 2 四半期提出用）」のセミナーを開催しました。平成 21 年 4 月 1 日より四半期報告制度適用 2 年目となっており、当第 2 四半期において、はじめて当四半期連結会計期間、前四半期連結会計期間、当四半期連結累計期間、前四半期連結累計期間の情報が求められ、いわば、フルバージョンの開示となっていることに対応したものです。



また、当セミナーでは、金融庁総務企画局企業開示課より「ディスクロージャー制度をめぐる最近の課題」として、我が国における国際会計基準の取扱いに関する意見書（中間報告）の概要等について、ASBJ からは「IFRS 導入に関するロードマップと ASBJ の取組み」として、プロジェクト計画表の更新等の説明も行われました。

延べ参加者数は 3,531 名に上り、関係者の関心の高さが窺われました。

### 13. 遠藤 FASF 常務理事が欧州の会計基準関係者を訪問

遠藤 FASF 常務理事は、9月3日から9日まで、欧州における会計基準に携わる関係者を訪問し、我が国における IFRS 適用に向けた動きや IFRS 対応会議の設置等の取組を紹介するとともに、最近の動向等について説明を受け、意見交換を実施しました。訪問先及び懇談項目の概要は、以下の通りです。

- ACTEO Patrice Marteau 議長 (SAC 副議長):

ACTEO の概要、仏における個別財務諸表の役割と方向性、5年間の IFRS 適用を踏まえた感想、仏経済界が検討中の課題、IASB への意見発信のあり方、IASCF のガバナンスの課題

- 日本銀行パリ駐在事務所 鈴木所長:

仏から IASB への意見発信のあり方、金融商品会計基準の公開草案に対する仏金融界の懸念、金融商品会計基準改訂への銀行監督当局による対応、仏における個別財務諸表作成向けの会計基準

- Pricewaterhouse Coopers パリ事務所 Oliver Sherer 氏他:

IASCF のガバナンスに対する懸念、5年間の IFRS 適用を踏まえた感想、IFRS を整合的に適用するための監査人等による取組、金融商品会計基準の公開草案に対する仏金融界の懸念

- CFA 協会 Vincent Papa 氏 (ARG メンバー):

CFA 協会の概要、IASB への意見発信のあり方、5年間の IFRS 適用を踏まえた感想、直接法のキャッシュ・フロー計算書を支持する理由

- Corporate Reporting User Forum Peter Elwin 氏 (ARG メンバー):

フォーラム設立の経緯、IASB への懸念と意見発信のあり方、5年間の IFRS 適用を踏まえた感想、特に関心のあるプロジェクト

- IASB David Tweedie 議長:

欧州における会計基準を巡る政治的動向、米国における IFRS 適用に関する動向と IASB サイドから米国関係者への働きかけ

- IASCF Tom Seidenstein COO:

IACF による資金調達状況、当財団からの資金拠出の見込み、サテライトオフィス設置に関する状況、IASCF 主催の定款改訂に関する円卓会議の準備、欧州における会計基準を巡る政治的動向、金融商品会計に関する銀行監督当局との協議

- Pricewaterhouse Coopers ロンドン事務所 Iain Selfridge 氏他:

5年間の IFRS 適用を踏まえた感想、日本における IFRS 適用に向けた推進体制に対する感想

### 14. IFRS に関するオーストラリア調査団に丸山専門研究員が参加

2009年9月15日から18日まで島崎憲明日本経団連企業会計企画部長をヘッドに日本公認会計士協会及び ASBJ/FASF からメンバーが参加した IFRS に関する調査団がオーストラリアを訪問しました。ASBJ からは丸山専門研究員が参加しています。

本調査団は、IFRS を先行して採用しているオーストラリアにおける IFRS 導入時の影響や現在の IFRS に対する取り組み状況などについての関係者に聴取し意見交換を実施すること及びオーストラリアの会計関連諸団体との関係を強化することを目的とするものです。主な訪問先は、財務省、財務報告審議会 (FRC)、オーストラリア株主協会 (ASA)、オーストラリア金融監督庁 (APRA)、オーストラリア会計基準委員会 (AASB)、オーストラリア勅許会計士協会 (ICAA) など延べ 19 の機関に及びました。これは、FRC 議長・IASCF トラスティーである Jeffrey Lucy 氏の尽力頂いた結果で

す。

そして、今回の調査の主な成果は、以下のとおりです。

- オーストラリアにおける先行事例は諸環境が異なるものの、日本におけるIFRS導入にあたり、導入コストや監査事務所の対応などのオーストラリアがIFRS採用に当たり直面した問題点やその解決について参考となる面があり、今後の導入過程で活用できるものと思われる。
- オーストラリアの会計関連諸団体との良好な関係の構築に資したものと考えられ、アジア・オセアニアにおける関係強化の礎を築いたこととなり、今後の連携により日本の発言力強化に繋げていける可能性が高まった。



オーストラリア財務省にて

15. プロジェクト進捗（コンバージェンス関連項目） 2009年10月7日現在

	2009 Q3	2009 Q4	2010 Q1	2010 Q2	2010 Q3	2010 Q4	2011
<b>既存の差異に関するプロジェクト項目</b>							
企業結合(ステップ2)	DP			ED			Final
財務諸表の表示 (非継続事業、包括利益)	DP	ED	Final				
無形資産		DP		ED			Final
過年度遡及修正		Final					
<b>IASB/FASB の MoU に関するプロジェクト</b>							
1 連結の範囲			ED				Final
2 財務諸表の表示 (フェーズB 関連)	DP			Comment	DP		ED
3 収益認識	DP			Comment	DP		ED
4 負債と資本の区分			Comment				
5 金融商品							
(保有目的区分の変更)		ED	Final				
(分類・測定)	Comment					ED	Final
(減損)		Comment				ED	Final
(ヘッジ会計)		Comment				ED	Final
6 公正価値測定・開示	DP Comment		ED		Final		
7 退職給付							
(ステップ1)			ED				Final
(ステップ2)		Comment					ED
8 リース	Comment					Comment	DP ED
9 認識の中止	Comment		DP				ED Final
<b>IASB/FASB の MoU 以外の IASB での検討に関するプロジェクト項目</b>							
1 株当たり利益*						ED	Final
引当金	DP				ED		Final
保険			Comment				

\*:一時休止中。IASB の動向を踏まえ、再開予定。

**[適用]**

- TC 専門委員会の設置
- Comment IASB の DP や ED に対するコメントの検討・作成
- DP 論点整理
- ED 公開草案
- Final 会計基準/適用指針 (最終版)

斜体文字は終了したイベントを表しています。

## 16. お知らせ

### 1) 刊行物のご案内

機関誌「季刊 会計基準」第 26 号（2009 年 9 月 15 日刊行）

#### 【主な内容】

- ✓ 特集 1：“IFRS 導入に向けて”
  - IFRS 導入推進体制の発足 … 萩原理事長他
  - 企業会計審議会意見書及び内閣府令改正の解説 … 金融庁
- ✓ 特集 2：“明日の財務諸表はどうあるべきか” … 財務諸表表示プロジェクトに関する座談会
- ✓ Accounting Square：“企業会計と監査役” … 築館勝利（社）日本監査役協会会長（東京電力㈱常任監査役）
- ✓ CFO Letter：“会計基準統一の取り組みを通じて” … 柄澤康喜 三井住友海上グループホールディングス㈱取締役専務執行役
- ✓ Chairman’s Voice：“金融商品会計基準の見直し” … 西川郁生 ASBJ 委員長

“ASBJ Newsletter”（第 11 号）

2009 年 10 月 20 日発行

発行：企業会計基準委員会／

財団法人 財務会計基準機構

東京都千代田区内幸町 2-2-2

富国生命ビル 20 階

編集・発行人：丸山顕義

制作：広報プロジェクトチーム

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail：[publicity@asb.or.jp](mailto:publicity@asb.or.jp)

Fax：03-5510-2712